

科 目 名	公共政策学			科目コード	SC331	
英 文 名	Study of Public Policy and Social Governance			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	公共政策とは、社会で解決すべきと認識された諸問題に対して、具体的な方向性と手続きを浮揚させながら、その解決に向けて取り組むものである。。本講では、公共政策・公共政策学の歴史と理論を概観するとともに、具体的な公共政策について事例解説を試みるものである。					
授業の狙い・ 到達目標	[到達目標①] 公共政策のその歴史と成立の背景について自らの言葉で説明することができる。 [到達目標②] 公共政策の構造と特徴について講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標③] 身近な公共的課題を探り、その背景と解決に向けて科学的に思考できる。					
授業内容の レベル・関連科目	私たちの社会生活に存在する公共政策について関心を払うとともに、その問題群が「社会で解決すべき」と認識された背景や事象などについて探究する姿勢が期待される。家族・ジェンダー、環境、教育、就労、貧困、医療福祉、地域経済などの関連領域と併せて学ぶことが望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	[事前学習]新聞やニュースなどを活用して自身の社会生活における将来の公共政策の課題の発見・発掘に努める。 [事後学習]各テーマで学んだことを振り返り、自己の生活における具体的な政策課題と重ね合わせながら、その解決策を構想する。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	・秋吉貴雄他『公共政策学の基礎(第3版)』有斐閣(2020) ・秋吉貴雄『入門 公共政策学』中央公論新社(2021) ・笠原英彦他『公共政策の歴史と理論』ミネルヴァ書房(2013)					
課題に対する フィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	公共政策が解決に取り組む政策課題の多くは複雑で、立場や考え方の違いにより適切に問題と認識されなかったり(主観性)、他の問題と相反する関係となることがあります(相反性)。これらの課題を客観的に見つめていく姿勢が学びのスタートラインにあることを理解しておこう。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ―公共政策とは何か― シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、社会生活における諸課題について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	公共政策の誕生と基本構造 政策科学の歴史を概観し、公共政策の誕生とその基本構造について調べておく。 公共政策の歴史とその成立背景を振り返り、その基本構造について理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	公共政策学の成立 科学としての公共政策学の成立背景やその分析的枠組み(理論, 方法, 事例等)について調べる。 政策科学から公共政策学への移行と背景を振り返り、科学としての公共政策学の理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	公共政策における2つの知識体系 公共政策に活用される知識と公共政策を分析する知識の違いについて調べる。 「in の知識」と「out の知識」をそれぞれ振り返り、公共政策の知識体系について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	「問題」の発見とフレーミング, 構造分析 公共政策の対象となる問題が発見される過程と、これらの問題群の分析方法等について調べる。 社会における問題発見の背景と事例を振り返り、問題設定のプロセスについて理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	公共政策の手段と設計, 社会調査 公共政策を設計するための社会調査の技法や法整備を含めた問題解決手段について調べる。 具体的な社会調査や設計事例を振り返り、公共政策の手段と設計に関する理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	公共政策における合理的意思決定とアクター理論 公共政策の意思決定の過程とそれらに関わるアクター間の連携と調整について調べる。 公共政策における合理的意思決定とアクター理論について振り返り、体系的な理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	利益調整と規範的判断 公共政策を設計・決定する過程で生じることのある利益調整と規範的判断について調べる。 公共政策の意思決定過程で生じる利益調整と規範的判断について振り返り、知識を整理する。
9 回	学習内容 予習 復習	公共政策の実施と知識の多元性 公共政策の実施の導線デザインや「現場地(実践知)」を含む知識の多元性について調べる。 公共政策の実施と知識の多元性について調べたことや講義内容を復習し、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	公共政策の評価と改善 今後の改善のための公共政策評価の種類と体系について調べる。 公共政策の評価手法と改善過程, それに伴う情報の透明化, 政策への理解等の要点を捉える。
11 回	学習内容 予習 復習	事例研究①「男女共同参画」 日本の「男女共同参画社会基本法」と「女性活躍推進法」について事前に通読しておくこと。 男女平等, 女性活躍, 多様な性の尊重について振り返り, その実現と課題に関して理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	事例研究②「文化芸術振興」 あらかじめ配布する日本の文化芸術振興に関する資料(文化庁文書)を通読しておくこと。 事例解説を振り返り, 日本の文化芸術振興に関する計画・法令や施策に関して理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	事例研究③「環境保護」 自然環境の保全や野生動植物・天然記念物の保護等の事例について事前に調べておくこと。 事例解説を振り返り, 自然環境を保護保全するための公共政策について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	事例研究④「教育振興とSociety 5.0」 日本の「教育振興基本計画」と「生涯学習振興法」について事前に通読しておくこと。 事例解説を振り返り, 日本の教育振興に資する法令や施策に関して理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ―公共政策の時代― これまでの講義を振り返り, 可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科目名	福祉政策学			科目コード	SC329	
英文名	Welfare Policy Studies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	健康・医療、子ども・子育て、福祉・介護、年金、労働者保護などの福祉行政領域における行政の役割とその実際について、具体的事例に即して学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	福祉政策(行政)の各領域ごとに、それぞれの特徴について理解を深めるとともに、当該領域での課題を明らかにする。 福祉の観点から社会制度を理解するとともに、生涯にわたり必要に応じ自ら行動できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 関連する科目としては、「社会福祉論」、「児童福祉論」などがある。					
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。					
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介する。					
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。					
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2 回	学習内容 予習 復習	【福祉行政とは】 福祉行政とはどのような行政なのかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	【医療保険制度】 病気になった時に必要な医療保険制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	【障害者福祉制度】 障害者を支援する制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	【高齢者福祉・介護制度】 高齢者の福祉・介護制度、生き甲斐作りなどについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	【生活保護制度】 生活に困っている人々への支援制度などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	【貧困対策制度】 貧困対策、子どもの貧困対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	【外国人に対する福祉施策】 外国人との共生施策、就労施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	【健康管理施策】 受動喫煙対策など健康で衛生的な生活を確保するための施策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	【年金制度】 国民年金制度、厚生年金制度など年金制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	★【子ども・子育て支援制度】 保育所の整備、児童手当など子ども・子育て支援の制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	★【嫌がらせ対策】 いじめ、虐待、ハラスメント、ストーカーなどの対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	★【子どもの健全育成施策】 自殺・引きこもり対策、有害環境対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	【労働者保護制度】 非正規労働対策、最低賃金対策、雇用機会均等施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ】 福祉行政の今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 全15回の授業を振り返り、福祉行政の今日的諸課題についてとりまとめること

科目名	環境政策学			科目コード	OC102	
英 文 名	Environmental Policy Studies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	環境政策とは、環境問題を解決するための手段(methodology)である。本講は、環境政策の歴史や基礎的概念、理念・目的について学び、特に、国内外における環境問題の事例考察と、その解決のみならず、これから求められる環境政策についても考究することを目途としている。					
授業の狙い・ 到達目標	[到達目標①]環境政策の目標、代表的な政策、政策主体について説明することができる。 [到達目標②]環境問題と社会の関係性について、多層的な理解に基づき説明することができる。 [到達目標③]環境問題の広汎なステークホルダーの責任と役割について説明することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	身近な環境問題の原因や背景とともに、その解決、予防に関心を持つことが期待される。環境問題の歴史とその同時代性を学び、環境政策の具体的な手続きと原則を理解する。「環境学概論」と併せて学習することで、環境政策の課題と可能性について展望することが望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	[事前学習]シラバスを読み、該当項目について予習するとともに、日頃からニュース・新聞等における環境問題に関する記事・情報について収集しておくことが望ましいこと。 [事後学習]振り返りシートを作成し、関心のある問題や事項について各自さらなる理解の深化に努めること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・ その他教材	・竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会(2020) ・勝田悟『環境政策の変遷』中央経済社(2019) ・西澤栄一郎・喜多川進編著『環境政策史』ミネルヴァ書房(2017)					
課題に対する フィードバック	課題レポート、小レポート、提出された振り返りシートにはコメントを付して返却する。					
成績評価方法	・到達目標①②③に関する課題レポート(60%)、 ・到達目標②③に関する小テスト・振り返りシート(30%)、 ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	環境政策の事例を、目的、手法、主体について体系的に理解すること。特に、環境政策がどのようなファクト(fact)に基づいて立案、実践、評価されているのか、日頃の探究が求められる。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ーなぜ環境政策が必要なのかー シラバスを精読し、講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、受講に当たっての目的と展望を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	環境政策とは何か 環境政策の目的と原則 環境政策とは何か、わが国ではどのように実施されてきたかについて調べ、概観しておくこと。 環境政策の目的と原則について振り返り、政策の背景にある環境問題について理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	環境政策の歴史と代表的手法 環境政策の歴史・変遷を時系列で概観し、その代表的手法について調べておくこと。 環境政策の発達とその背景、及び環境政策の代表的な手法について説明できるようにすること。
4 回	学習内容 予習 復習	環境政策に関する制度と施策 環境基本法 環境基本計画 環境政策に関する制度や具体的な施策と、その主体(国、地方自治体など)を調べておくこと。 環境政策に関する制度や施策を体系的に説明できるようにすること。
5 回	学習内容 予習 復習	我が国の環境政策と国際的な動向の関わり 我が国の環境政策と、国外の環境政策との関わりについて調べておくこと。 地球規模での問題に拡大した国内外の環境問題と環境政策との関わりについて復習しておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	温室効果ガス・気候変動と環境政策 京都議定書、パリ協定 温室効果ガスの排出状況や気候変動、これらに対する国内外の取り組みについて概観しておく。 京都議定書が我が国の環境政策に与えた影響やパリ協定との違いについて説明することができる。
7 回	学習内容 予習 復習	不確実性とポリシーミックス 環境問題の不確実性から、複数の政策手段の組み合わせによる課題解決の活用について調べる。 複数の政策手段による相乗効果について復習しておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	海外・国内の事例 アラスカの原油流出事故 経済への影響 先住民に与える影響 アラスカにおける原油流出事故や、先住民にどのような影響を与えたかについて調べておくこと。 アラスカのみならず、環境被害が当該地域や先住民に経済的・文化的に与えた影響を復習する。
9 回	学習内容 予習 復習	廃棄物・循環型社会と環境政策 プラスチックごみ、食品ロス、エシカル消費など 廃棄物に関する環境政策について、身近な事例や海外事例などを調べておくこと。 廃棄物に関する今日的諸課題について振り返り、身近な視点だけでなく大局的な視点も持つこと。
10 回	学習内容 予習 復習	生物多様性と環境政策 里地里山、エコツーリズム 身近にある里地里山や、エコツーリズムと生物多様性との関わりについて調べておく。 講義内で解説した事例を復習し、生物多様性の保全に向けた取り組みについて理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	まちづくりと環境政策 都市の環境問題、低炭素社会、まちづくり 都市型の環境問題にはどういったものがあるか、低炭素社会とは何かについて調べておくこと。 講義内で配布したプリントの事例を復習しつつ、改めて多様な事例を収集することが望ましい。
12 回	学習内容 予習 復習	自然災害と環境政策 エネルギー政策 国内外のエネルギー政策の現状、自然災害と再生可能エネルギーについても調べておくこと。 エネルギー政策に関する多様な議論を把握し、その変容や、現状及び課題について復習する。
13 回	学習内容 予習 復習	ジェンダーと環境政策 気候変動によるジェンダー不平等という観点からの環境政策 気候変動による災害リスクがもたらすジェンダー問題・ジェンダー不平等について調べておく。 ジェンダー・エンパワーメントを阻害しない環境政策についての問題意識を持ち、復習すること。
14 回	学習内容 予習 復習	SDGsの達成に向けた環境政策 環境影響評価 SDGsに関連する環境対策やその評価手法、SDGsの実現可能性や議論にも目を向けること。 SDGsそのものや環境対策に関する多様な議論を踏まえ、自身なりの問題意識を持つこと。
15 回	学習内容 予習 復習	漂流する環境政策の未来 これまでの講義を振り返り、今後の環境政策の在り方について問題意識を持ち、課題設定を行う。 全体を振り返り、地域的かつ大局的な視点から、環境政策の意義や諸課題を説明できること。

科 目 名	環境社会学			科目コード	OC103	
英 文 名	Environmental Sociology			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 塑		教員コード	138	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本授業は、近年大きく取り上げられ、また多くの人が関心を持っているプラスチックごみに注目する。なぜ大量のプラスチックごみが発生するのか、誰が排出者なのか、海に流れ込んだプラスチックごみはどうなるのか、プラスチックごみを減らすにはどうすればよいのか、について講義する。					
授業の狙い・到達目標	プラスチックごみを通して現代社会の特徴を理解し、これからの社会のあり方を考えることができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:社会経済史					
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	中嶋亮太(2019)『海洋プラスチック汚染』岩波書店					
参考書・その他教材	枝廣淳子(2019)『プラスチック汚染とは何か』岩波書店 授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。					
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。					
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	わたしたちの生活とプラスチック 教科書の第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	大量生産と大量廃棄 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	リサイクルの実態 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	海洋ゴミの排出国 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの大きさ 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの発生要因 教科書の第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの行き先 教科書の第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	行方不明のプラスチック 教科書の第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	海洋生態系と人への影響Ⅰ(プラスチックを食べるものたち) 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	海洋生態系と人への影響Ⅱ(人と社会への影響) 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅰ(プラスチックを海から除去できるか) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅱ(リデザイン) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅲ(バイオプラスチック) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科 目 名	生活環境学			科目コード	SC333	
英 文 名	Living Environment Studies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	生涯にわたって健康で豊かな生活を営むことは人類共通の願いであり、人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上のために、食環境を中心とした生活を取り巻く環境と食の安全性についての基礎を学ぶ。					
授業の狙い・ 到達目標	食と環境の関係や食の安全を考える上で基本となる科学的な考えを理解できるようになる。食生活、水生活さらに廃棄物などにおける身近な生活環境について関心を持ち、理解することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	現存する生活環境課題における仕組みについて理解し、生活環境への改善および工夫の仕方について自ら考え、実践することが大切である。					
授業外学習 (予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深めること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。					
参考書・ その他教材	及川紀久雄『新環境と生命』三共出版；大塚譲ら『社会・環境と健康』東京化学同人					
課題に対する フィードバック	講義中の小テストは、その場で解説する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食と環境の関係などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	日本における環境問題などについて学ぶ。 環境基本法について調べること。 授業プリントを用いて日本における環境問題について振り返り、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	人間と環境・食料などについて学ぶ。 エルニーニョ/ラニーニャ現象について調べること。 授業プリントを用いて食料不足原因および食料自給率について振り返り、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	食品中の汚染物質対策について学ぶ。 「ALARAの原則」について調べること。 授業プリントを用いて食品中の汚染物質対策について振り返り、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	食中毒対策について学ぶ。 食中毒の危険について調べること。 授業プリントを用いて食中毒対策および予防について振り返り、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	食品に残留する農薬の対策について学ぶ。 「一日摂取許容量」、「ポジティブリスト制度」について調べること。 授業プリントを用いて食品残留農薬の対策について振り返り、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	食品添加物の安全性について学ぶ。 マーケットバスケット方式と生産・流通・使用量調査方式について調べること。 授業プリントを用いて食品添加物の機能および安全性について振り返り、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	遺伝子組換え食品の安全性について学ぶ。 日本で認められている遺伝子組み換え作物について調べること。 授業プリントを用いて遺伝子組換え食品の安全性について振り返り、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	水環境、浄水処理などについて学ぶ。 原水の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各浄水処理法について振り返り、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	生活排水対策などについて学ぶ。 活性汚泥の機能について調べること。 授業プリントを用いて下水処理および排水処理について振り返り、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	大気汚染と健康について学ぶ。 大気汚染物質の種類について調べること。 授業プリントを用いて大気汚染の仕組みおよびその対策について振り返り、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	室内環境と健康について学ぶ。 シックハウス症候群について調べること。 授業プリントを用いて室内環境と健康との関係について振り返り、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	廃棄物の対策について学ぶ。 マニフェスト制度について調べること。 授業プリントを用いて廃棄物の種類と処理法について振り返り、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	3R活動などについて学ぶ。 3Rの具体的な活動について調べること。 授業プリントを用いて「循環型社会」について振り返り、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科 目 名	農業経済学				科目コード	SC337	
英 文 名	Agricultural Economics				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	中村 塑			教員コード	138	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	現代における農業・農村・食料の問題について講義する。わたしたちが生きる「グローバル社会」において、毎日の食事は日本の農業だけではなく、世界の食料事情や農産物貿易とも深い関わりを持っている。わたしたちが置かれている社会的環境を、食と農から学んでいく。						
授業の狙い・到達目標	農業・農村・食料についてバランスのとれた知識を身につけ、自分なりの意見や問題の解決策を持てるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:経済学概論						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	生源寺眞一(2018)『新版 農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』家の光協会						
参考書・その他教材	明治大学農学部食料環境政策学科編(2011)『食料環境政策学を学ぶ』日本経済評論社 授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

農業経済学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	人類の基礎的な食料 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	所得水準の向上と穀物 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	世界の栄養不足人口 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	途上国農業の特徴 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	先進国の農業保護政策 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	食料自給率低下の原因 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	食料安全保障 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	集約型農業の特徴 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	土地利用型農業の課題 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	農業の多面的機能 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	農村コミュニティの共同力 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	豊かな食生活 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	農業・農村との接点 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科 目 名	文化人類学			科目コード	SA316	
英 文 名	Cultural Anthropology			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	慣習や価値観が異なる文化について事例を挙げて検討しながら、自分たちの「あたりまえ」を捉え直していく。身近な営みである食をテーマに、その文化的なありかた、食と技術、現代の食事情等について考える。四街道地域を中心にフィールドワークも行う。					
授業の狙い・ 到達目標	履修生の身近なテーマから文化人類学の基本的な考え方を学び、異文化への関心を深める。普段あまり意識しない自文化について、客観的に捉え直すことができるようになる。内容を覚えるのではなく、履修生それぞれが自分なりに意見をもてるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	関連する論文等を読解できる日本語力および英語力を必要とする。ある事象について自分なりの意見を書いたり述べたりできる。(関連科目)社会調査法、地域ブランド論、循環型社会論					
授業外学習 (予習・復習)	常識や固定観念にとらわれず、自文化や異文化について、自分の意見をもっておくよう努めること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。					
参考書・ その他教材	松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社、2017年。Ingold, Tim. <i>Anthropology and/as Education</i> .Routledge. 2017.					
課題に対する フィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。					
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには「循環型社会論」も合わせて受講すること。また、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していることが望ましい。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。					

授業スケジュール

文化人類学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	異文化とカルチャーショックについて考える。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	人類学のとフィールドワークについて学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読む①人類学的な考え方 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、課題に取り組み提出する。
5 回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読む②人付き合いについて考える 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	ここまでの振り返り:『うしろめたさの人類学』から学んだことを議論する これまでの資料を読み返し、自分の意見をまとめてくること 他の受講生の意見をふまえて、自分の考えをまとめること
7 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク①四街道市内の街歩き 事前に配布する資料を読んでおくこと 街歩きで気が付いたことをまとめて提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク②四街道市の食と農 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	映画「いのちの食べ方」を鑑賞する。 事前に配布する資料に目を通しておくこと。 映画を見て、食の現代的な問題について意見を書き、提出すること。
10 回	学習内容 予習 復習	食の現代的な問題についてのディスカッション 映画の内容を振り返り、議論の要点をまとめてくること。 他の受講生の意見を聞いて、自分の意見をまとめレポートを提出すること。
11 回	学習内容 予習 復習	食の人類学①食べ物の保存に関する在来地 事前に配布する資料を読んでおくこと 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	食の人類学②食文化の継承 事前に配布する資料を読んでおくこと 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク③四街道市近郊の食文化 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワーク④千葉県の保存食 事前に配布する資料を読んでおくこと 聞き取り調査で得られた情報をまとめて提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科 目 名	地方自治論			科目コード	SC334	
英 文 名	Study of Local Government			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	かつて英国のジェームズ・ブライズは「地方自治は民主主義の学校である」と述べた。その後、社会の進展とともに、地方自治はその姿を大きく変貌させてきた。本講では、地方自治の歴史や事例の解説を通して、自治体の主体として私たちが担うべき役割と責任について考察する。					
授業の狙い・ 到達目標	[到達目標①] 地方自治の歴史について講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 公共サービスや総合計画など自治体の業務について説明することができる。 [到達目標③] 地域住民が分担すべき領域とその責任・課題等について説明することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	地方自治では、その地域で暮らす住民すべてが「主人公」である。日常生活で感じる疑問や気づきを大切にして、私たちを取り巻く制度やシステムに関心を持つことが期待される。公共政策、法制度、まちづくり、生涯学習、観光、福祉などの関連領域を併せて学習することが望まれる。					
授業外学習 (予習・復習)	[事前学習] 自身が居住する自治体について理解を深め、地方自治に関する自己の社会経験等を記録していくことが望ましい。 [事後学習] 講義で解説したテーマを具体的な自治体の活動や計画・施策に接続させること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	・大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書(改訂版)』第一法規出版(2021) ・北村亘他『地方自治論 -2つの自律性のはざままで-』有斐閣(2020) ・福島康仁編『地方自治論(第2版)』弘文堂(2018)					
課題に対する フィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	地方自治とは、自治体の制度やシステムだけでなく、住民自身による意思決定の過程とその問題群を包含しています。地方自治の当事者としての自覚をもって主体的に学ぶことが期待されます。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ―地方自治とは何か― シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、自身の居住する自治体について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	日本における地方自治の歴史 明治期以降の日本の地方自治制度の歴史と社会変化に伴う現代的課題の誕生について調べる。 講義を振り返り、自身の居住する自治体の歴史と成り立ちについて理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	「国」と地方自治 戦後憲法で保障された日本の地方自治の特徴を学び、国家と地方自治の関係性を調べる。 講義を振り返り、国家と地方自治の関係の歴史とその課題について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	自治体のしくみ 身近な自治体の執行機関の種類や役割、財政と税制度の課題等について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の機構と活動に接続させながら、さらなる理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	地方自治の計画 身近な自治体の多様な計画と施策について学び、先進的な政策事例について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の計画と実施に接続させながら、さらなる理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	地方議会と選挙制度 地方自治における二代表制、首長のリーダーシップ、議会の役割、選挙制度等について調べる。 地方議会と選挙制度に関して、地方自治における役割、被選挙権等の選挙制度等を説明できる。
7 回	学習内容 予習 復習	コミュニティの自治と住民参加 地方自治法に定められた住民直接請求権や住民参加の事例について事前に調べておく。 まちづくりに地域住民が積極的に参加できるようになった歴史的背景について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	拡張する公共サービスと「自助・共助・公助」の課題 拡張する公共サービスや地方の政策課題を誰がどのように支えるべきか自らの考えをまとめておく。 公共サービスが円滑に機能するための「自助・共助・公助」の連携について説明できる。
9 回	学習内容 予習 復習	「新しい公共」と地方自治の協働 「新しい公共」にはどのような種類と活動があるのか事前に調べておくこと。 「新しい公共」と地方自治の協働の事例を振り返り、「自助・共助・公助」の観点からも復習する。
10 回	学習内容 予習 復習	事例研究① 「平成の大合併」 「平成の大合併」の背景と特徴とともに、合併を選択しなかった自治体の住民自治について調べる。 地方自治における合併の意味や効果の概略、合併を選択しなかった自治体の事例を説明できる。
11 回	学習内容 予習 復習	事例研究② 身近な役場の組織と業務 自身が居住する自治体(区市町村等)の役所・役場の機構とその業務・役割について調べる。 役所・役場の機構と業務・役割について、これからの住民ニーズとの調和という観点からも振り返る。
12 回	学習内容 予習 復習	事例研究③ さまざまな公共サービス 上下水道、ごみ、道路、年金・介護、警察と消防など自治体が担う公共サービスについて調べる。 公共サービスとその財源について振り返り、公共サービスをまちづくりの基盤として捉えて理解する。
13 回	学習内容 予習 復習	事例研究④ 総合計画と総合戦略 自身が居住する自治体(区市町村等)で策定されている総合計画等について調べておく。 自治体の総合計画と総合戦略の変遷や現在の内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	事例研究⑤ 防災と安心安全のまちづくり 私たちがこれまで経験してきた災害と自治体が果たしてきた役割について調べておく。 災害時における自治体の役割、防災計画の策定、情報提供等の役割について振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ―「地方」から学ぶ― これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科目名	地域資源論			科目コード	SC335	
英 文 名	Study of Local Resources and Management			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人口減少社会の時代において「地域資源」は多様でその役割も大きくなりつつある。本講は、さまざまな領域における地域資源の事例を解説しながら、地域資源の管理と活用について理解を深めるものである。					
授業の狙い・ 到達目標	[到達目標①] 地域資源の管理と活用に関して講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標②] 地域社会に潜在する資源化可能な事象を発掘し説明することができる。 [到達目標③] 地域活性化に資する地域資源の活用を構想できる。					
授業内容の レベル・関連科目	本講の目途は、地域資源に関して、従来の目的や利用と異なる新しい意味や活用を発見することであり、可能な限り、講義の内容とテーマを、まちづくり、共生社会、生涯学習、キャリアデザイン等の学びへ結びつけていくことが期待される。					
授業外学習 (予習・復習)	[事前学習] 身近な地域資源を発掘し各回の講義テーマと積極的に結びつけて学習の準備に努めること。 [事後学習] 学習した内容を関連科目の学びや自身の社会生活へ活用していくことに努めること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・ その他教材	・ジョン・フィールド『社会関係資本』明石書店(2021) ・古賀弥生『芸術文化とちいきづくり -アートで人とまちをしあわせに-』九州大学出版会(2020) ・藻谷浩介『里山資本主義 -日本経済は安心の原理で動く-』角川書店(2013)					
課題に対する フィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	地域資源とは、経済的に価値のあるものばかりではなく、例えば、文化・芸術がその地域住民の絆(きずな)や誇りを醸成することもあり、柔軟な思考と自由なアイデアづくりが期待されます。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ―地域資源とは何か― シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	地域資源の多様性とマネジメントの論理 現在の地域資源の種類と特徴について調べ、これらを活用事例について調べる。 身近な地域資源を発見し、その資源がどのように活用されているのか調べてみよう。
3 回	学習内容 予習 復習	関係人口・交流人口と観光資源 関係人口と交流人口の定義を概観し、観光に活用される地域資源について調べる。 定住人口から関係人口と交流人口へ論点の変遷を振り返り、まちづくりの理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	エネルギー資源と経済開発 石油・ガス, レアアース, 再生可能エネルギー 地域に特有なエネルギー資源を調べ、経済開発とその課題について確認しておく。 私たちの社会を支えるエネルギー資源について振り返り、その活用の問題について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	自然資源の保全, 希少種の保護, ジオパーク, エコツーリズム 保全保護の対象である自然資源と人間社会との関係性について調べておくこと。 講義を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認して理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	「田園風景」の社会史 人々が集まる「景観 (landscape)」や「居場所 (niche)」についてその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
7 回	学習内容 予習 復習	地域資源としての埋蔵文化財 遺跡の発掘や考古学資料などの埋蔵文化財が地域活性化の資源となる事例について調べておく。 講義を振り返り、考古学上の発見が社会的に大きな影響を与えた事例について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	建築物, 建造物群, 街なみ, ランドマーク 地域(まち)を表象する建物や建造物群とその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
9 回	学習内容 予習 復習	無形の地域資源 ―祭礼・信仰・技術・パフォーマンス― 無形の地域資源について調べ、伝承・保護と活用の両立を達成する施策について考える。 講義を振り返り、無形の資源を伝承し、地域資源として蓄積するための方策について構想してみる。
10 回	学習内容 予習 復習	地域資源としての食・食文化 地域に特有な食文化や観光資源として活用されているレシピ・食材等について調べておくこと。 講義を振り返り、食をキーワードとしたまちづくりと資源化のプロセスについて理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	みやげもの (Souvenir) の類型と意味 みやげものに関する「Gordonの5類型」を確認しておくこと(資料は事前配布します) 講義を振り返り、みやげものとして資源化されるモノや活動を自分なりにまとめてみる。
12 回	学習内容 予習 復習	博物館・美術館とアート・マネジメント 博物館・美術館を基軸としたまちづくりの事例を調べておくこと。 講義を振り返り、博物館・美術館が地域活性化に資する資源として活用可能であることを確認する。
13 回	学習内容 予習 復習	廃校利用と目的外利用の意義 少子化の影響で増加する学校の廃校事例を調べ、その再利用方法について調べる。 講義を振り返り、施設を目的外で利用する時代の背景と意義について、自身の考えをまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	多様化する地域資源 ―医療, 福祉, 子育て, 女性活躍, 防災― 医療, 福祉, 子育て, 女性活躍, 防災等をまちづくりに活用している事例を調べる。 地域資源の多様性と柔軟性を振り返り、身近な地域社会に潜在している地域資源を発掘する。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ―社会関係資本と地域資源― これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	地域ブランド論			科目コード	SC332	
英文名	Regional Innovation			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人口減少や少子高齢化が進む現代社会において、地域の活性化に向けて、その地域特有の歴史、文化、特産品、景観など有形無形の資源について考え、地域の方々と交流しながら、その価値を理解していく。					
授業の狙い・到達目標	地域ブランドは、特産品・名産品づくりだけでなく、訪れる・購入する・交流する・住むことを促すような、歴史、文化、景観、人々のコミュニティなどを含めた総合的な体系であることを理解できるようになる。その際、地域資源の活性化に関わる活動に取り組んでいच्छる地域の方々との交流を重視し、「体感する」ことを主眼におき、実践につなげることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	ディスカッションや地域の方との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。(関連科目)社会調査法、文化人類学、循環型社会論					
授業外学習(予習・復習)	日頃から、地域社会・地域文化に興味を持ち、さまざまな問題に対し、自分の考えを持てるように努めること。また、テーマごとにディスカッションしたりレポートが書けるよう、配布資料やフィールドワークのメモなどを復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	指定しない。					
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて適宜参考文献を指示する。					
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。					
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する					
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「社会調査法」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。					

授業スケジュール

地域ブランド論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる①四街道市の歴史 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる②四街道市の産業 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる③四街道市の特産品・名産品 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる④人と人をつなぐコミュニティ 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	四街道市の産業に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
7 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察①四街道市の産業について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	グループワーク① グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
9 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション①四街道市の産業をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
10 回	学習内容 予習 復習	四街道市の特産品・名産品に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察②四街道市の特産品・名産品について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	グループワーク② グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
13 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション②四街道市の特産品・名産品をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
14 回	学習内容 予習 復習	地域活性化のアイデアの実践 第9回・第13回のプレゼンテーションで提示されたアイデアを振り返っておく。 地域との関わりのなかでの気づきをまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめー四街道市について得られた知識やアイデアをディスカッションする これまでのプレゼンテーションの課題をまとめる。 授業中のディスカッションについてまとめてレポートを書く。

科目名	まちづくり論			科目コード	SA315	
英 文 名	Community and Development Study			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	まちづくりは、人々のつながりや活動が生み出す「暮らしの風景」をともにデザインしていくことである。本講は、具体的な事例の解説と実践的な講義を通して、まちづくりの意義と可能性について学ぶものである。					
授業の狙い・ 到達目標	[到達目標①]まちづくりの実践事例を講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②]まちづくりの課題と可能性について、自らの言葉で説明することができる。 [到達目標③]他者と協働して新しい活動や絆(きずな)づくりを構想できる。					
授業内容の レベル・関連科目	まちづくりは、さまざまな学問分野や活動領域の総体であることから、文化、芸術、歴史、地域社会、経済経営、キャリアデザインなどの関連科目を併せて学習とともに、大学外での学びや経験を大切にすることが望まれる。					
授業外学習 (予習・復習)	[事前学習]まちづくりの実践例について調べ、まちづくりの基点となる事情や関係の探究に努めること。 [事後学習]講義内容を実際の社会生活に結びつけて振り返り、他者との協働を実現するために必要なことを自分なりに考えていくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・ その他教材	・山崎義人他『はじめてのまちづくり学』学生出版社(2021) ・大内田鶴子『世界に学ぶ地域自治 -コミュニティ再生のしくみと実践-』学生出版社(2021) ・松本茂章『文化で地域をデザインする』学芸出版社(2020)					
課題に対する フィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いに基づいた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	まちづくりに大切なことは「過程」と「経験」です。人々が笑顔になれるまちづくりとは、どのようなものを意味するのか、既存の考えや常識にとらわれることなく、自由な発想と思考を期待しています。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ―育てあうまちづくり― シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	協働のまちづくり ―社会関係資本― 社会関係資本とはどのようなことを意味しているのか、事前に調べておくこと。 社会関係資本の概念が生まれた経緯や協働のまちづくりについて振り返り理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	生涯学習社会の到来とまちづくり 日本における生涯学習の歴史と現在推進されている施策について調べておくこと。 生涯学習の歴史を振り返り、現在のまちづくりとの連携や展望について整理する。
4 回	学習内容 予習 復習	まちづくりを担う専門職 ―社会教育主事・社会教育士― 社会教育の専門職である社会教育主事・社会教育士の責務と仕事について調べる。 まちづくりにおける社会教育主事・社会教育士の役割と実践事例について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	SDGsとまちづくり SDGsを事前に調べ、これらの取り組みをまちづくりに応用する方策と工夫について調べる。 講義を振り返り、SDGsの理念を反映したまちづくり事例を主体的に調べてみる。
6 回	学習内容 予習 復習	産業とまちづくり 地域に特有の産業や生産物を活用したまちづくりの事例を調べておくこと。 地域の特性を生かした産業や生産物が、まちづくりに与える影響・効果について振り返る。
7 回	学習内容 予習 復習	サブカルチャーの「聖地」 サブカルチャーの「聖地」にはどのようなものがあるか、事前に調べておくこと。 聖地となっている土地、場所、建物などの事例を掘り下げ、まちづくりの事例として理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	「消滅可能性都市」をめぐる議論の課題と展望 消滅可能性都市について調べ、事前に自らの考えをまとめておくことが望ましい。 講義を振り返り、消滅可能性都市に関する理解を深め、将来の議論のための解決策を構想する。
9 回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(1) 防災 地域の防災計画を概観し、人々が安心と安全を感じるまちの要件について調べる。 各地の防災計画について振り返り、多様なニーズに対応した防災計画について構想する。
10 回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(2) 男女平等、多様な性の尊重 事前配布資料を通読し、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりに資することを確認する。 講義を振り返り、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりの推進の一助となることを理解する。
11 回	学習内容 予習 復習	「地域総がかりで子どもを育てる」 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール(CS) 文部科学省が推進する地域学校協働活動とCSについて、事前に確認しておくこと。 地域学校協働活動やCSが推進されている理由とその実践事例について説明できるようにする。
12 回	学習内容 予習 復習	まちづくりと広報、情報化の課題 情報を発信する手段・方法にはどのようなものがあるか事前に調べておくこと。 講義を振り返り、魅力ある広報や情報発信の効果・有用性などについて理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	自治基本条例(まちづくり基本条例)と行政計画 事前に配布する自治基本条例の中から、関心のある事項を1つ以上選んで通読しておくこと。 講義を振り返り、自治体基本条例や各行政計画について、概略を説明できるようにする。
14 回	学習内容 予習 復習	まちづくりの「失敗学」 まちづくりが成功しなかった事例を調べ、その理由や背景について自身の考えをまとめておく。 講義を振り返り、まちづくりが成功しなかった事例を通して、改善点と新たな提案について考える。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ―パートナーシップと「場所の力」 これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科 目 名	循環型社会論				科目コード	SA316		
英 文 名	Circulatory Society				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	山崎 寿美子			教員コード	147		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	木曜日/2時限		授業形態		講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	資源の枯渇、環境汚染、気候変動などの問題が生じている今日、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を見直して、新たな資源の消費を抑え、廃棄物を資源として再利用するといった循環型の社会のあり方が模索されている。本授業では、こうしたテーマについて講義するとともに、四街道市の活動団体などに調査も実施する。							
授業の狙い・ 到達目標	環境に対して意識を持ち、生活環境問題・地球環境問題に関する学びを通して、何がどのように問題かを考える力を養っていく。環境配慮型製品の普及や、資源や廃棄物の利用法などについて学び、持続可能な社会への施策を考えられるようになる。							
授業内容の レベル・関連科目	新聞などが読める日本語力・読解力や、聞き取り調査などに必要なコミュニケーション能力を必要とする。(関連科目)地域ブランド論、文化人類学、社会調査法							
授業外学習 (予習・復習)	授業前に配布するレジュメや資料を読んてくること。授業後は、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと。また、調査に際して事前に情報を調べたり、調査後にデータを整理するなどの、積極的な姿勢が不可欠である。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし							
参考書・ その他教材	養父 志乃夫『里地里山文化論〈上〉循環型社会の基層と形成』農山漁村文化協会、2009年。養父 志乃夫『里地里山文化論〈下〉循環型社会の暮らしと生態系』農山漁村文化協会、2009年。山口未花子2014『ヘラジカの贈り物ー北方狩猟民カスカと動物の自然誌』春風社。							
課題に対する フィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。							
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)							
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する							
履修上の 注意事項や 学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「文化人類学」も合わせて受講すること。また、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していることが望ましい。							
科目に関連した 教員の実務経験	特になし							
担当教員への 連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。							

授業スケジュール

循環型社会論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	循環型の考え方ー大量生産・大量消費・大量廃棄型からの移行 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会①循環とは何か 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて、ディスカッションに備えること。
4 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会②具体例から学ぶ 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて、ディスカッションに備えること。
5 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会③ディスカッション 資料を見直し、講義の内容に関して、意見をまとめ、ディスカッションの準備をすること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
6 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習①循環型社会へ向けた取り組みを行なう団体などへの聞き取り調査 これまでの授業をふまえて、質問項目を考えてくること。 聞き取りで得られたデータをまとめておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習②結果の報告 データを整理して、報告できるよう準備をすること。 他の受講生の報告を受けて、何がポイントであったか、要点をまとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及①身近な道具・物から循環型製品について考える 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及②事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
10 回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①資料を読む 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
12 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習③環境問題に取り組む団体への調査 これまでの授業をふまえて、質問項目を考えてくること。 聞き取りで得られたデータをまとめておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習④結果の報告 データを整理して、報告できるよう準備をすること。 他の受講生の報告を受けて、何がポイントであったか、要点をまとめておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習⑤ディスカッション 整理した要点に基づいて、自分の意見が述べられるよう準備すること。 授業でのディスカッションを受けて、レポートを提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科 目 名	移民政策論			科目コード	SA319	
英 文 名	Immigration Policies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、移民政策について考える。前半は、グローバル化によって変わる政治経済と移民政策における各課題について学ぶ。後半は世界各地のエスニック集団の事例について紹介する。					
授業の狙い・ 到達目標	①現代社会の政治を理解する手がかりとして、グローバル化の概念をヒトの国際移動の観点から説明することができる。 ②現代の移民政策についての基本的な論点をおさえ、日本の地域社会における望ましい共生のあり方や問題点を述べられるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。					
授業外学習 (予習・復習)	日頃からニュースや新聞などに目を通し、グローバル化現象や、外国人コミュニティに関して関連知識を得ること。授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。					
課題に対する フィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。					
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 移民政策論の視点 シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	国家、国民、民族 国家や国民、民族といった用語を調べ、理解しておく。 講義で説明された用語の概念を復習し、説明できるようにする。
3 回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 ヒト・モノ・カネの国際移動 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	移民とは① 国家の成立やグローバル化の進展について振り返っておく。 講義をふりかえり、説明された用語の概念を復習し説明できるようにする。
5 回	学習内容 予習 復習	移民とは② 前回の内容を復習し、不明な点は調べておく。 第4～5回の内容を振り返り、知識を定着させる。
6 回	学習内容 予習 復習	移民の移動 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
7 回	学習内容 予習 復習	移民政策 多文化共生・教育・福祉 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
8 回	学習内容 予習 復習	日常の中の異文化交流 普段の生活において生じる異文化理解の必要性について、あらかじめ考えておく。 講義の内容をふまえて、自身の異文化理解の態度について再考する。
9 回	学習内容 予習 復習	ビジネスにおける異文化理解力 企業等において生じる異文化理解の必要性について、あらかじめ考えておく。 講義の内容をふまえて、自身の異文化理解の態度について再考する。
10 回	学習内容 予習 復習	海外の日系人社会 日本から海外への移住の歴史について調べておく。 日本人の海外移住の歴史を、近年のアジアの国々の動向と比較しながら復習する。
11 回	学習内容 予習 復習	北米のエスニック社会 アメリカとカナダの移民政策について、概略を調べておく。 北米の中国系移民とその他とを比較し、北米のエスニック社会の理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパのエスニック社会 EUや周辺諸国で生じている移民問題について調べておく。 EUの移民問題と北米の移民問題との違いを考える。
13 回	学習内容 予習 復習	世界のチャイナタウンと日本の華人社会 チャイナタウンがどのような国や地域でみられるかを調べておく。 中国系移民がどのように現地に適応しているか考える。
14 回	学習内容 予習 復習	日本のコリアン人社会 日本のコリアン社会の歴史について、概要を調べておく。 コリアン社会と日本文化の相互の影響について、サブカルチャーなどを切り口に考察を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

科 目 名	多文化共生社会論			科目コード	SA317	
英 文 名	Inclusive Society of Various Cultures			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	吉元 菜々子		教員コード	165	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	異なる他者との共存は、グローバリゼーションの進展とともにますます大きな問題となっている。この授業では他民族・多文化社会を理解するための基礎的な知識を習得するとともに、特定の人びとが社会的に排除される仕組みについて考えていく。					
授業の狙い・ 到達目標	他者との差異を優劣で判断する発想を離れ、自他の差異を尊重し自らの視野を広げる姿勢を身につけることができる。また、社会的排除の背後に潜む権力関係や仕組みを理解することで、多文化共生の問題について主体的に考えることができるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	他者理解への関心や意欲が必要である。多文化共生に対する理解を深めるため、「移民政策論」、「地域文化と共生」の履修を推奨する。					
授業外学習 (予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。					
参考書・ その他教材	高山陽子(編)(2022)『フォビアがいっぱい——多文化共生社会を生きるために』春風社					
課題に対する フィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	日ごろから授業に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。					
担当教員への 連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——「共生」とはなにか シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	「文化」と文化相対主義 自分の一日の生活を振り返り、その中で「文化的」だと思ふ事柄について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	グローバリゼーションと世界 「グローバリゼーション」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	グローバリゼーションとローカル社会 海外から日本に伝わった食べ物にはどのようなものがあるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	人種と民族 人種差別にはどのようなものがあるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	国民国家とナショナリズム 「ナショナリズム」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	日本人と「我々」 日本人の要件とは何かについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	外国人と移民 海外に移住するとしたらどこに住みたいかについて、その理由とともにまとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	難民と歓待 難民と呼ばれる人びとは世界にどれくらいいるのかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	先住民と権利 先住民という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	宗教とイデオロギー 世界にはどのような宗教があるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	ジェンダーと身体 ジェンダーによる差別には何があるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	貧困とホームレス 現在、日本にホームレス状態の人はどれくらいいるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	老いと装い 年を取ることの良い側面と悪い側面について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——「共にいる」ということ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、受講内容について理解を深めること。

科 目 名	地域文化と共生			科目コード	SC338	
英 文 名	Inclusive Society and Local Cultures			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	晨 晃		教員コード	209	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバリゼーションに伴う多文化共生現象について日本の社会環境の中で学ぶ。講義では学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学問を深める。					
授業の狙い・ 到達目標	日本社会の現実から、多文化共生の基本的な考え方を学び、多文化共生と自分自身の生活経験との関連性を認識する。日本社会の中でますます進んでいる多文化共生現象について理解を深め、日本社会に関心を持ち、自分なりの考え方を形成できるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	最新情報に基づいて多文化共生に関する現状と知識を得る。その中で社会学の視点からあらゆる要因を分析する力を身につける。					
授業外学習 (予習・復習)	授業の前にインターネットを利用して情報を収集し、研究発表を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次の授業で解答や意見交換を行う。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	日本政府のウェブサイト(総務省)など https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/02gyosei05_03000060.html 毎日のニュースを注目すること					
課題に対する フィードバック	授業に関する質問や感想文を毎回提出させ、次の授業で解答や意見交換を行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

地域文化と共生

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2 回	学習内容 予習 復習	「多文化共生」概念の整理 多文化共生という基礎概念について調べ、理解すること 多文化共生現象研究の開始、発展について振り返り、レポートを提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	島国としての日本と多文化共生 日本社会の特徴について調べ、理解すること 日本と多文化共生の関連性について振り返り、レポートを提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	多文化共生の条件について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の役割について調べ、理解すること 以上の諸要素の意義について振り返り、レポートを提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	多文化共生によって発生する問題について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の差異について調べ、理解すること 異文化コミュニケーションの問題点について振り返り、レポートを提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	日本社会における技能実習生の現状について学ぶ。 技能実習生に関する情報や現状について調べ、理解すること 働く外国人と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	日本の外国人留学生について学ぶ。 留学生に関する情報や現状について調べ、理解すること 留学生と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	多文化共生に関する日本政府の政策・方針について学ぶ。 日本政府の政策や対策について調べ、理解すること 日本政府の政策について振り返り、レポートを提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	日本各地の自治体と多文化共生について学ぶ。 自治体の多文化共生策について調べ、理解すること 自分の住む地域の現状について振り返り、レポートを提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(1) 欧米人と日本社会 欧米人の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(2) アジア人と日本社会 韓国人、中国人、ベトナム人のケースについて調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(3) その他の民族と日本社会 その他の民族の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べ、レポートを提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	多文化共生の将来について学ぶ 多文化共生の可能性について調べ、理解すること なぜ多文化共生が必要であるかについて振り返り、レポートを提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	ディスカッション あなたの体験談 他人の気持ち、立場をいかに理解するかについて考えること 授業を受ける前と受けた後、自分の変化について振り返り、レポートを提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——多文化共生の意義について学ぶ 人類の将来と多文化共生の関係について調べ、理解すること 今までの授業内容を振り返り、多文化共生の諸課題をとりまとめること

科 目 名	社会調査法				科目コード	SC332	
英 文 名	Social Reserch Methods				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子			教員コード	147	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/1時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	地域や文化についての深い理解には、文献購読の他、聞き取りや参与観察に基づく現地調査が欠かせない。本授業では、文化人類学的な調査について講義した後、グループごとにテーマを設定し、地域団体や市役所等のご協力を得ながら、実践的に調査を行なう。						
授業の狙い・ 到達目標	卒業研究で調査を行うことを前提に、受講生が自ら研究の問いを立て、調査計画を考えられるようになることを目指す。調査の意義・方法に関する基礎的な知識を習得するとともに、インフォーマントとの関わりのなかで調査をするとはどういうことかを実践的に学ぶことができる。						
授業内容の レベル・関連科目	授業内でのディスカッションや地域の方々との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。（関連科目）地域ブランド論、文化人類学、循環型社会論						
授業外学習 (予習・復習)	実践的な授業のため、事前に調査のテーマに関する情報を調べたり、調査後にはデータを整理したりするなど、積極的な取り組みが不可欠である。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。						
参考書・ その他教材	松村圭一郎『はみだしの人類学 ともに生きる方法 NHK出版 学びのきほん』NHK出版、2020年。梶丸岳・丹羽朋子・椎野若菜(編)『フィールドノート古今東西』、古今書院、2016年。						
課題に対する フィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「地域ブランド論」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。						

授業スケジュール

社会調査法

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	問いを立てる①研究や調査の前提となる問いと仮説について考える 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	問いを立てる②新聞記事から 新聞を読み、社会問題に関する記事を選んで持ってくること。 自身で研究の問いが立てられるよう、授業内容を復習すること。
4 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ①講義 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ②四街道市で活動する団体へのインタビュー 事前に情報を調べ、インタビュー項目を作成してくること。 インタビューの内容をまとめておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ③ディスカッション インタビューの内容について、ディスカッションできるよう整理しておくこと。 他の受講生の発表を受けて、仮説を再検討すること。
7 回	学習内容 予習 復習	参与観察について学ぶ。 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	ライフストーリー調査について学ぶ 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践①グループごとに調査計画をつくる 四街道市で活動する団体や専門家などについて調べ、調査のテーマを考えてくること。 アドバイスを受けて、調査計画を再検討すること。
10 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践②調査計画を推敲する グループごとに調査計画を練り直し、発表できるよう準備すること。 他のグループの発表を受けて、良い点、改善点をまとめ、自分たちの計画に活かすこと。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践③調査の実施 調査協力者にアポを取り、調査の準備を整えること。 調査で得られたデータを整理して、途中経過を報告すること。
12 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践④調査の実施(続き) 前回の調査での反省点・改善点や気づきをグループで話し合っておくこと。 調査で得られたデータを整理して、報告できるようまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑤調査データの報告(グループ1)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑥調査データの報告(グループ2)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	総合討論 互いのグループの報告について、良い点・改善点などをまとめてくること。 ディスカッションで提示された課題について、各自が自分の意見をまとめて提出すること。

科目名	農業史				科目コード	SC336	
英 文 名	Agricultural History				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 塑		教員コード	138		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿もあらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。						
授業の狙い・到達目標	日本における農業の歩みを学び、現代日本農業が有する諸問題の歴史的背景について理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:社会経済史						
授業外学習(予習・復習)	講義レジュメに沿って授業を進める。したがって予習として事前に目を通し、復習として授業後に再度見直すこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	木村茂光編(2010)『日本農業史』吉川弘文館 講義レジュメを配布する。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

農業史

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	原始の農業 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	古代の農業 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	中世の農業 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅰ(新田開発の進展) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅱ(集約農業の追求) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅲ(農書の誕生) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅳ(商業的農業の隆盛) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅰ(地租改正と農業) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅱ(農業・農村問題の登場) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅲ(小作争議の勃発) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅳ(戦時・戦後期) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅴ(高度経済成長と農業) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅵ(国際化時代の農業) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科 目 名	地域共生演習Ⅰ				科目コード	SA321	
英 文 名	Studies of Inclusive SocietyⅠ				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶			教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/2時限		授業形態	演習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	この授業では、GIS(地理情報システム Geographic Information System)を取り扱う。GISソフトウェアの基本操作となる地図の表示や計測機能と、地理空間情報の分析方法について学ぶ。						
授業の狙い・ 到達目標	① GISの基本的な概念を理解し、説明することができる。 ② GISソフト「MANDARA」の基本操作を習得し、主題図の作成ができるようになる。 ③ 空間データをもとに、地理空間情報の分析ができるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	必要となる前提知識は設定しない。 地域共生演習Ⅱを合わせて履修することで、空間をとらえ、表現する能力を養うことができる。						
授業外学習 (予習・復習)	習った内容は繰り返し確認し、授業内容と同様のソフトウェア操作は独力で行えるように練習しておくこと。また、その際は、別のデータを用意してソフトウェアに入力してみるなどして、操作だけでなくその出力結果も意識しながら復習をすること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	授業内で適宜案内する。						
課題に対する フィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(50%)、演習成果(50%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	受講人数や進度により、演習内容を変更する場合がある。 PCの基本操作(アカウントへのログイン、ファイルの保存、メールの送信等)や、オフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint等)の操作については、授業内では案内しないので注意されたい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

地域共生演習 I

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション シラバスを読み、授業内容について理解する。 授業の目的や内容、進め方について確認する。
2 回	学習内容 予習 復習	GISとは 近年、GISがどのように用いられているか、調べておく。 授業で紹介した内容と予習時に調べた内容を合わせて、GISの重要性について再確認しておく。
3 回	学習内容 予習 復習	様々なGISソフト GISの基本的な概念について復習しておく。 演習で操作した様々なツールについて、各々の特徴や利点を再確認しておく。
4 回	学習内容 予習 復習	MANDARAのダウンロードと基本操作 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
5 回	学習内容 予習 復習	付属地図ファイルを使用した白地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
6 回	学習内容 予習 復習	都道府県別・市区町村別の統計地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
7 回	学習内容 予習 復習	国土数値情報を用いた地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
8 回	学習内容 予習 復習	ジオコーディングによる分布図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
9 回	学習内容 予習 復習	メッシュデータの地図化 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
10 回	学習内容 予習 復習	国勢調査の小地域データを地図化する 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
11 回	学習内容 予習 復習	立地分析① 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
12 回	学習内容 予習 復習	立地分析② 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
13 回	学習内容 予習 復習	地域データの収集&プレゼンテーションファイルの作成 どのような主題図を作成したいか、あらかじめ想定し、データを準備しておく。 出力した地図について、指摘された箇所を修正する。
14 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション① これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション② これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。

科 目 名	地域共生演習Ⅱ				科目コード	SA322	
英 文 名	Studies of Inclusive Society Ⅱ				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶			教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		火曜日/2時限		授業形態	演習
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	測量は古代から現在に至るまで変わらずに重要であり続ける技術の一つであり、その応用分野は幅広い。この授業では、教養として知っておくべき地図と測量の知識について案内しつつ、演習として実際に様々な方法を用いた測量を行う。						
授業の狙い・ 到達目標	① 測量に関する歴史や応用分野など、基本的な知識について説明することができる。 ② 測量の原理を理解し、正確な測定のための技術を実践できる。 ③ 授業で学んだ方法をもって、簡易な測量を計画し、実行することができる。						
授業内容の レベル・関連科目	高校初歩レベルの数学の知識が必要となる。 空間をとらえ、表現する能力を養うために、地域共生演習Ⅰを合わせて履修することが望ましい。						
授業外学習 (予習・復習)	測量は知識であり技能でもあることから、自身による反復の予習・復習が欠かせないことに注意されたい。また、測量機材の取り扱いについては、授業時間中に細かなメモを作成するなどし、よく予習・復習をしておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	授業内で適宜案内する。						
課題に対する フィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(50%)、演習成果(50%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	受講人数や天候等により、演習内容に調整を加える場合がある。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ～地図と測量～ シラバスを読み、授業内容について理解しておくこと。 授業の目的や内容、進め方について確認しておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	測量法、測量の種類、測量技術の進歩 身の回りでどのように測量が用いられているかを調査しておくこと。 授業内で紹介された測量の応用分野や最新技術について、調査を行うこと。
3 回	学習内容 予習 復習	測量で用いる計算① 単位と測量数学 高校数学を復習しておくこと。 授業で学んだ計算方法について、数値を変えるなどして自分でも繰り返し計算をしてみること。
4 回	学習内容 予習 復習	測量で用いる計算② 誤差と最確値 高校数学を復習しておくこと。 授業で学んだ計算方法について、数値を変えるなどして自分でも繰り返し計算をしてみること。
5 回	学習内容 予習 復習	距離を測る① 距離を計測する様々な方法について、あらかじめ調べておくこと。 実際に計測をしてみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	距離を測る② 前回到測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	土地の高低を測る① 土地の高低のデータが必要とされる場合はどのようなときか、調べておくこと。 実際に計測をしてみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	土地の高低を測る② 前回到測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	水平の角度を測る① 第1回と第2回の内容を中心に、角度と測量の関係について振り返っておくこと。 実際に計測をしてみた結果を振り返り、第3回・第4回で学んだ内容と合わせて検討しておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	水平の角度を測る② 前回到測定した結果と手順をよく振り返っておくこと。 前回学んだ内容と合わせて、測量の手順、方法をよく復習しておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	トータルステーションを用いた測量 第5回～第10回までの内容を重点的に復習しておくこと。 トータルステーションで計測する場合の注意点について、復習しておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	面積を測る 高校数学を復習しておくこと。 第3回・第4回の内容と、第5回から第12回までの内容とを関連付け、復習しておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	班別の測量(準備) 計画書の作成 これまで学んだ内容から、どのような測量が可能か、あらかじめ考えておくこと。 次回以降行う班別の測量の、役割分担や手順について班員とよく話し合うこと。
14 回	学習内容 予習 復習	班別の測量① 提出した測量の計画書を振り返り、測定の手順や機材の取り扱いを予習しておくこと。 測定が計画通り行われたかを振り返ること。
15 回	学習内容 予習 復習	班別の測量② 提出した測量の計画書を振り返り、測定の手順や機材の取り扱いを予習しておくこと。 測定が計画通り行われたかを振り返ること。

科 目 名	地域共生フィールドワーク実習			科目コード	SA323	
英 文 名	Fieldwork of Inclusive Society			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子／中村 塑		教員コード	147／138	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/1時限		授業形態	実習
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	教員の指導のもとでフィールドワークのテーマを決め、実際に地域に出かけて調査を行う。最後に調査結果をまとめ発表を行う。対象地域は千葉県内を予定している。					
授業の狙い・ 到達目標	実習を通して、調査方法、データの分析方法、プレゼンテーションの仕方などを身につけることができる。また実習での経験を通して、フィールドワークの意義を学びながら、次年度の卒業研究に役立てる。					
授業内容の レベル・関連科目	大学生の学修としては応用レベルである。 関連科目：地域共生専攻のすべての科目					
授業外学習 (予習・復習)	授業スケジュール記載の予習と復習に取り組むこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	特になし					
課題に対する フィードバック	授業の中で随時コメントをする。					
成績評価方法	実習態度(60%)、報告書等の作成(20%)、プレゼンテーション(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	実習の性格上、地域の方々と関わる機会が多いため、積極性と協調性は欠かせない。また時間を守り、欠席する際は必ず事前に担当教員に連絡をすること。授業スケジュールは実習地側の事情を最優先させるため、変更することもある。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org(中村)、yamazaki@aikoku-u.org(山崎)					

授業スケジュール

地域共生フィールドワーク実習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定① テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
3 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定② テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
4 回	学習内容 予習 復習	実習地について調べる①(歴史・自然・生活環境) 調べるための資料を集めてくること 教員や他の受講生の意見を踏まえて、資料収集と分析を進めること
5 回	学習内容 予習 復習	実習地について調べる②(産業・文化) 調べるための資料を集めてくること 教員や他の受講生の意見を踏まえて、資料収集と分析を進めること
6 回	学習内容 予習 復習	調査① 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	調査② 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	調査③ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	調査④ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	中間報告 これまでの調査を振り返ること 課題点を整理し、次に何を調査するかを検討すること
11 回	学習内容 予習 復習	調査⑤ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	調査⑥ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	調査⑦ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	調査⑧ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	報告会 これまで得られたデータを、発表できるようにまとめること 教員や他の受講生の意見をふまえて、報告書にまとめ、提出すること